

2024年8月10日

今日のアメリカの労働運動から何を学ぶのか

大阪経済大学 伊藤大一

はじめに

皆さんこんにちは。大阪経済大学の伊藤と申します。ウェブ参加の皆様もよろしくお願ひ致します。本日は「今日のアメリカ労働運動から何を学ぶのか」ということで話していきたいと思います。先ほどレイバーノーツの話も出ましたけれど、私も何回も行っていませんけれど、今年には行けなくて本当に残念だったです。これはマガジン、雑誌です。ノートです。ノートの複数形がノーツですから、労働争議が1件起こる度に、その記事をノートにして、それをバインダーに綴じていくという意味です。セッションというのは、その記事とか労働争議があって、当事者がこう闘っているということを報告し、それを聞くということが元々です。

まず自己紹介ですが、初めての人には、私は山梨県出身で第7サティアンの近くで生まれていう話になりますけれど、2回目なので、ここは全部飛ばしてやっていこうと思います。今、ここに字幕がついていますが、かなり正確です。これを誰が作っているかと言うとAIです。マイクロソフトのAIが、これだけ正確にできるわけです。レイバーノーツに行くと、英語ができるようになりたいと思います。これをGoogle翻訳というか、翻訳とAIをかましたら、話している内容が字幕で出てくるわけです。ここまでAIは進化したわけです。なぜこんなことを言うのかと言うと、私は「何でも屋」に近いですが、昔はフリーターの研究をしていました。今はAIが資本主義をどう変えるかという研究をしていて、あまり本を読むのは苦手なので、いっそのこと自分がAIのもとで、使われてみたらと思って、大阪のウーバーイーツで配達しました。それはすごい勉強になりました。AIに指示される労働者とはこういうものかということを経験しました。現在のロボットにAIを積むと何ができるかと言うと、おそらく何でもできます。ただし、このロボットが一体いくらするかと言うと、とんでもない値段です。介護をやらせば、なんでも介護してくれるという、そういう世界です。そういう意味で、科学技術は我々を良い方にも導くわけですが、問題はこいつに戦争させるのが一番早いという話になります。軍事利用です。そうなった時に資本主義社会はどうなっているのか。AIによる自動運転で20年後はタクシーの運転手さんは不要になるだろう、多くの仕事はなくなるだろうと言われていています。一方AIは、専門用語でブルジットジョブと言いますが、「クソどうでもいい仕事」ということですが、このような仕事を大量に生み出します。さっきの英語翻訳ソフトで、短い英語のセンテンスを日本語にすることを何万個もディープラーニングで覚えさせるためのテキストは誰が作っているかと言うと、人間が作っているわけです。子どもに性的な画像を見させないためにチェックするAIソフトもありますけれど、そもそもAIは性的な画像かどうかはわからないです。どうやって判断しているかと言うと、これは性的、これは性的ではないという膨大な画像を人間がチェックして、それをディープラーニングで覚えさせているわけです。そういうくだらないブルジットジョブみたいな仕事が生み出されてきて、そういうものを作っている人たちは、家でパソコンの前でやっているわけですが、雇用労働

働ではないです。労働法は適用外です。ウーバーイーツも労働者ではないです。これまで我々が築き上げてきた労働基準を守るための法律、そういうのを全部無効化しています。こうなった時に資本主義というのはどう変わっていくのか。私、引っ越して静岡市に住んでいますけれども、私の子どもはどう教育したら、将来飯食っていけるかということを、夫婦で相談しています。しかしわかりません。これだけ技術が進歩する中で、技術進歩は止められない。じゃあこの技術進歩が、私たち人類の幸せにつながるかと言ったら、そんなことは必ずしも 100%は言えません。だって原爆がそうでしょう。そういう中で私たちは何を考えていかなければいけないか。そういう問題は非常に大きな問題であろうと思っています。今日はそういうあまり大きな話をしてもしょうがないので、アメリカではこうなっていますという話をしますけれど、その背後には、何のために私たちは研究し、何のために私たちは考え、何のために私たちは労働運動するのかと言えば、人類社会の幸せのためにやっているわけです。そういう点から私たちの運動、私たちのやっていることを、もう一度見直していこうと思っています。

1 アメリカ格差社会と労働組合の現状

1-1 アメリカ格差社会と労働組合の現状

アメリカ格差社会と労働組合の現状ということで、ニューヨーク大学の Wolff さんが書かれた「A Century of Wealth in America」という本があります。アメリカの純世帯資産、純世帯資産というのは不動産価格、家の値段、それに家のローンの値段を差し引いて、資産としていくらあるかということ、世帯単位で分析した本です。図 1 を見るとアメリカの格差社会はどういうふうに見えるのかということですが、1983 年と 2016 年のアメリカ社会を比べております。アメリカの所得階層を家計で見た場合、上位 20%、上位 20% から 40%、中位 40% から 60%、下位 40% 以下で考えてみるとどういうことが言えるかというと、上位 20% の第 5 分位の所得階層の人たちは、1983 年から 2016 年でどう変化したかを見ると、上位 20% は 1983 年に 1.4 億円の資産を持っていたのが、2016 年では 3.3 億円という風に倍以上、2.5 倍ぐらいになっています。つまりより大きな家を持ち、より大きな車を持ち、そういう風に豊かになったのが上位 20% です。上位 20% から 40% の第 4 分位の人たちは、1986 年には 2,200 万円から 2016 年には約 3,000 万円です。中位 40% から 60% の第 3 分位になると、なんと変わってないです。資産は伸びてないです。下位 40% 以下の第 2・1 分位については、40% 以下といっても半数近く、アメリカの半数近い人たちは 76 万円の資産から 98 万円の負債、マイナスに突入するわけです。こんなことあるのかなと思いました。計算を間違ったのではないかと思ってみましたが、これはあるかもしれないということがわかりました。なぜかということ、私は 32 歳の時に大学教員になりました。大阪経済大学は給料の高い大学です。最初にボーナスもらった時にびっくりしました。私の両親は地方公務員同士で結婚しましたが、母親は「あなたの初任給は、私の定年間際の給料と一緒にね」と言っていました。だけど大阪経済大学に就職したばかりの私は、資産で見たらマイナススタートです。だって日本育英会の奨学金を借りていて 600 万円、4 月ではマイナスで、ボーナスもらってトントンになるかならないかです。そう考えると労働者階級、私たちも含めて、家を買ったら 3,000 万円、4,000 万円でしょ。3,000 万円、4,000 万円の

家を買って、それを返していくわけです。30年ローンで、ということは30年近く、家を買った時点ではマイナスです。父親は1947年生まれで、私は団塊世代の息子です。父親は高卒で公務員になって、公務員同士で結婚して私が生まれました。父親は高卒なので、私には「大学に行け」と言うわけです。そして「公務員になりなさい」と言っていました。田舎の地方公務員同士が結婚すると、所得階層で見ると比較的経済力はあるので、その経済力を教育投資として、子どもにつき込んだわけです。ですので、わが家では子ども全員が大卒です。一番下の妹は小学校の先生です。父親としては良かったけれど、それは父親たちの世代までです。資本主義のゴールデンエイジ、高度経済成長は日本だけではなくて世界で起こりました。そうすると父親たちの世代は自分の親より圧倒的に豊かになっていったわけです。おじいさんは尋常小学校卒で大工になりました。ひいおばあさんに至っては字が読めないです。うちのおじいさんが日中戦争に行つて従軍した時に、戦地から写真の裏に手紙を書きます。ひいおばあさんは字が読めないで、その写真を近くに持って行って、読んでもらったということです。そういう意味ではわずかに数世代の間に、日本は本当に豊かになりました。そしてそれが反転するのが、団塊世代の子どもである私たちからです。なので私が大学生の時は、フリーター問題が焦眉の課題でしたし、私はフリーター問題を研究しましたし、人口論的に見たら私たちからは子どもが生まれません。この国はこれから先、人口が増えることはありません。団塊世代の父親たちは数が多いので、その子どもである私たちも多いですが、もう私も50歳ですので、総人口としたら日本は増えていくことはありません。そういう社会に突入してきたという下で、AIという科学技術を使いながら社会をどう動かすかということも考えていかなければいけないです。ちょっと脱線しましたが、これがアメリカの格差社会の現実だとすると、アメリカもそうですけれど、父親たちの世代は圧倒的に自分の親を超えて豊かになった世代です。

Raj Chetty という人が「消えゆくアメリカンドリーム」"The Fading American Dream" という論文を書いていますけれど、親を超えて豊かさを手に入れられる、親が住めなかった家を持ち、親が実現できなかった子どもを大学に行かせるということを実現するのがアメリカンドリームでした。それが消えつつあるという論文です。どういう論文かということ、ポイントはコーホート分析と言いますけれど、図2は1940年生まれ、1950年生まれ、1960年生まれ、1970年生まれ、1980年生まれの人たちの所得分位、下から20%、40%、60%、トップ20%の人たちで区別した時に、親の所得を超える可能性が何%あるかということを表したグラフです。1940年生まれ、つまり私の父親が1947年生まれですから、戦後のゴールデンエイジと言われた人たちは、圧倒的に親を超えて豊かさを築く世代です。トップ10%ぐらいの金持ちの子どもは親を超えられなかった可能性があるけれど、圧倒的に90数%が親を超えていたのが1940年生まれ、私の父親たちの世代です。1950年生まれ、1960年生まれ1970年生まれ、歳が若くなるに従って親を超える確率、親の所得を超える確率がどんどん減っていきます。そして1980年生まれに至っては、全体で見たら50%、親の所得を超えるのは半分の人しかいません。そういうアメリカ社会が出来上がりました。つまりどういうことが言えるかということ、シカゴへ行ってみたらわかると思いますけれど、物価がすごく高いです。ホテル代なんて払えない。昼ご飯食べていくらかかるのみみたいな世界です。そういう世界の豊かなアメリカにおいて、一極集中がものすごく勢いで進んで

います。それはトップ 20%どころではなくて、トップ 1%の人たちが富を独占する一方、下の 40%以下の半分近い人たちは、マイナスの中で生活せざるを得ないわけです。そういう社会が一方のアメリカです。そういうもとで UAW は、なぜ今回ストライキに成功したのかという問題が出てくるわけです。

1-2 アメリカ労働運動の現状

(1) 労働組合組織率

それではアメリカの労働運動の現状を話していきたいと思います。ちょっと古いですけど、2021 年のアメリカ全体の労働組合組織率は 10.3%、民間はもっと低くて、アメリカの労働組合は公務員の労働組合が比較的組織率が高いので、平均で 10.3%になります。日本は 16.5%ですので日本より低いです。そういう意味で言うとアメリカの労働運動の長期衰退傾向は変わっていません。なぜ衰退に歯止めがかからないのかというと、ビジネス・ユニオニズムと言われます。わかりやすく言うと、中間階級、白人、男性のための労働運動が中心になっていった結果、マイノリティ、黒人、ラティーノ、メキシコの人たちは置き去りにされていって、日本風に言うと正社員労働組合の既得権益ばかり守っているのがビジネス・ユニオニズムです。それに対して広く労働者の権利向上のためにというのがソーシヤルムーブメント・ユニオニズム（社会運動ユニオニズム）です。今はソーシヤルムーブメント・ユニオニズムという潮流が注目を集めています。正社員組合主義ということ、すごくわかりやすく言うと、ラスベガスを作ったのが労働組合です。アメリカは公的年金制度がないです。だから GM とかのブルーカラー労働者は、自分たちで年金を運用するわけです。その運用先はどこか。膨大な年金資金を集めたお金をどこに突っ込むかというと、日本は公的年金で運用していますけれど、アメリカは公的年金がないのでラスベガスに突っ込むわけです。ラスベガスは砂漠です。ホテルの中にサーカス場があり、遊園地があるわけです。そこのホテルに投資して、みんな世界中からカジノへ遊びに行きます。ホテル代はすごく安いんです。子どもと嫁さんを連れて行くので、嫁さんと子どもはプールで遊んで無料、父親はカジノで遊ぶということです。年金をそこにつぎ込むわけですけど、マフィアと繋がっているということで叩かれましたし、アメリカ議会の公聴会にも労働組合が呼ばれました。ですから労働組合というのはダーティーだというイメージがつかまりました。なぜアメリカは労働法で労働者を守らないかというと、労働者を守る法律を作ったら黒人も守らなければいけないわけです。黒人の権利を抑え込むためには法律を作らない、法律を作ると平等で扱わなければいけないので、つまり黒人を差別するために法律さえ作らないということです。アメリカではいまだにありますけれど、日本では私たちは選挙権をもらえます。アメリカは選挙人名簿に登録しないとダメです。黒人差別のきついところでは、その場でテストを受けないと選挙権をもらえないです。どういうテストかというと、アメリカ最高裁判事 16 名の名前をフルネームで書けとかですが書けないです。白人の人はどうするかというと、親が選挙権を持っていたら子どもにはテストなしで自動的にもらえます。つまり白人の人は行けば選挙人登録できますけれど、黒人はテストされるわけです。これが当たり前に行われていたアメリカという国は、やはり豊かな国ではありますが、多くの問題を抱えていることは間違いありません。

(2) 注目を集めるアメリカ労働運動

今注目を集めているアメリカ労働組合運動が、2021年から2022年にかけて、アマゾン、スターバックス、アップルストアで労働組合結成が続きます。ニューヨーク州のアマゾン倉庫は、過酷な労働の中で8,500人の組織化をします。その背景として、なぜこういう労働法が未整理なところで、労働組合の結成が相次いだかと言うと、コロナで物価水準が上昇するもど働く意味の再発見があります。また労働組合の結成を恐れた企業は、自主的に賃上げ発表しました。ウォルマートは2021年9月に56.5万人の労働者の時給を1ドル引き上げました。どういうことかと言うと、「皆さんの賃金は労働組合なんかなくても私たちは上げますよ」ということをアピールするためです。なぜかと言うと労働組合がウォルマートに来られたらかなわないからです。ターゲットという会社、関西で言うとナフコとかですけれど、時給を15ドルから22ドルに引き上げることを表明しました。労働組合を作らせないために自主的に賃上げをするということが起きています。そしてUAWがこれだけ盛り上がったなら、トヨタと日産と本田は労働組合を作らせないために賃上げしたわけです。トヨタの工場は全部黒人差別のある南部にあります。なぜかと言うと南部は特別の労働権法という法律があって、労働組合をさらに作れないようにしているわけです。そこに集中的に工場を作っているわけです。労働組合を作らせないためです。実は私は2年前に、アメリカトヨタ上級副社長のチームの一員として、上級副社長の後ろにくっついてアメリカ南部の5つの工場を回らせてもらえるということで行きましたけれど、びっくりしました。ワーカーとして普通に働いている人は白人ばかりです。おそらく黒人は排除されています。トヨタは非常に給料がいいので、高卒の労働者、時給制の労働者が働いていい給料を稼げる、そういうアメリカの中流と言われる労働者階級は、南部においては差別的と言ってもいいと思います。アメリカの超一流ホテルチェーンであるマリオットでは、黒人の人は掃除する人ぐらいでした。差別が見えないようになっています。

それでもアメリカで労働運動に注目が集まります。コロナが加速したエッセンシャル・ワーカーのパワーですけれど、図3はアマゾンの労働組合を作ったクリスチャン・スモールズという人です。労働組合結成に成功した時に、こうやってシャンパンを抜いてお祝いしています。アメリカの中で最も金持ちの一人と言われるのはアマゾンの創業者のジェフ・ベゾスですが、20分の宇宙旅行を楽しんでいたという人で、労働組合が大嫌いです。労働組合結成に成功した時にクリスチャン・スモールズが言ったセリフがすごいです。「ジェフ・ベゾスにお礼を言いたい。彼が宇宙旅行を楽しんでいる間、我々は（労働組合結成に向けた従業員投票を行うために必要な）署名を集めることができたのだから。」コロナの時に何が起こったかと言うと、アマゾンの倉庫で働く人というのは、トイレも行けないと言われていたぐらいです。そこで膨大な倉庫を走り回って商品をピックアップするわけです。それをずっとやっていて、コロナの感染対策ほとんど取られないで、コロナでばたばた倒れます。他方、コロナの時にアマゾンの売り上げは上がるわけです。「世界を支え、人々の生活を支えているのは我々なのに、ジェフ・ベゾスは友達と20分の宇宙旅行を楽しんでいるなんておかしくないか」と言って、アマゾンの労働者を組織するわけです。組織の仕方は、朝の出勤前に無料のご飯を食べる所を作って、「今日の仕事はどう？」と話しながら、

「やっぱり組合は必要だ」という話をしていたらしいです。そういう形で労働組合を作っています。格差社会が労働者の中に、明らかにおかしいと映る姿を、コロナが強調したわけです。世界は崩れ、今まで当たり前だと思ったことはできなくなり、アマゾンに注文は殺到し、エッセンシャル・ワーカー、看護師、掃除する人、病院のシーツを洗濯する人、彼らがいないと社会は回りません。だけど、「トップのベゾスは億万長者で宇宙旅行を楽しんでいるのはおかしいじゃないか」という形で、人々の意識を変えていったということです。俳優労働組合、ここはAIに関係しますが、ストライキをします。この前に注目を集めたのがシカゴ教員組合です。ここが2012年に初めて執行部をとって、労働運動を取り戻せという形でやります。こういったアメリカ労働組合運動から何を学ぶのかということです。世界的に見てシカゴ教員組合が始めた運動は、全米8週に飛び火します。この飛び火する時に、ポイントはウエストバージニアです。ウエストバージニアは南部の州で、労働組合の権利は法的に制限されているので、ストライキができません。公務員がストライキすると懲戒処分がかけられるわけですが、ストライキ禁止のウエストバージニアの教師たちがストライキに立ち上がってしまったわけです。全員が立ち上がったなら何が起こったかという、処分をできなかったわけです。1人、2人、3人、4人がストライキに突入したら懲戒処分をかけられますけれど、ウエストバージニアの教員が全員立ち上がって、全ての小学校・中学校が休校になりました。そうなったら懲戒処分できませんし、教員だけではなくて全ての公務員の給与が上がりました。

2 アメリカのストライキの現状

この背後に何があるのか。その総仕上げとしてUAW（全米自動車労働組合）のストライキで何が起こったかということです。ポイントは何かだったのかと言うと、史上初の3社同時ストライキ戦術だったのです。これまでは日本の春闘もそうですけれど、パターンセッターということで、ある1社と合意を結んで、それをベースに何パーセント乗せるかという形でやっていたわけですが、それをやめました。3社同時ストライキ戦術というのは具体的にどういうことかと言うと、3社同時だけれど、ストライキは事業所つまり工場ごとに行うわけなので、そうすると工場はいっぱいあるわけです。最初は軽自動車から始めます。軽自動車とか部品工場から始めるわけです。GM、フォード、ステランティスの小さい工場から始めて、一番良い条件を出した所、例えば「GMはこう言っている。なぜこの条件をお前ら出せないんだ」と言って、交渉を釣り上げようとするわけです。そしてフォードが「そんなことできるわけじゃないか」と言ったら、何をしたかと言うと、軽自動車ではなくて普通乗用車の所にストライキをしかけるわけです。そうすると段々ストライキが広まってくることに對して、「勘弁してよ。じゃあうちはこうします」と言う、今度はステランティスに話を持っていくわけです。部品工場や軽自動車から始めて、普通乗用車、そしてピックアップトラックという大型車の工場に最後にストライキをぶつけます。そこでGM、フォード、ステランティスは全面降伏しました。ポイントは3社同時ストライキで、産業別組合のUAWが、「あそこでストライキに入れ」、「あそこでストライキを妥結しろ」ということは上位に決定権があるわけです。もちろん決定したことを下が受け入れるかどうかは、また下の投票がありますけれど、産別ストライキなのでUAWのフェイン

会長が軽自動車や部品工場から始めて、最後はピックアップトラックで決戦を挑むという戦術、戦略を描いていたということです。主力工場に波及される。そして各社の決算発表に合わせて世論を喚起して、決算の時にぶつけるわけです。

2008年にリーマンショックが起きました。その時アメリカではGMとクライスラーがつぶれて国有化になりました。その時に何が起こったか。2008年に国有化になった時、UAWはデトロイトでデモをしました。その時に、自動車産業労働者と一緒に歩いてくれる人はいませんでした。この時、税金で救われた時に、「俺たちの給料を守ってくれ」と言ったって、その時みんなアメリカ人は家も失っていたわけです。その下でGMとクライスラーの給料はものすごく下がりました。二段階賃金と言われますけれど、わかりやすく言うと非正規雇用でした。同じ仕事をしていても、2008年や2009年以降に入職した人は給料を安くされました。これは労働組合にとっては屈辱です。同一労働同一賃金の破壊ですから。それを今回撤廃させたわけです。2009年には「賃金が高すぎるから破綻した」と日経新聞には叩かれていましたし、アメリカでもそう思われていました。それで孤立して敗北したわけです。その教訓からUAWのフェイン会長たちはどういう運動をしたかということ、“Eat The Rich”「金持ちを喰っちまえ」です。金持ちと言うのはアマゾンの会長、マイクロソフトの会長、UAWの会長たちです。決算でUAWの社長・会長の給料は、2008年に比べて報酬は3倍・4倍に上がっているわけです。だけど労働者は何も変わっていない。「じゃあ俺たちの40%の賃上げは、そんなにおかしいか。しかもこれだけ物価が上がっているアメリカの下で」ということです。もう一つは「格差社会を終わらせる」、つまり格差社会への意義申し立てです。このストライキはUAWの労働者だけが勝つストライキではない。ここで勝てば、次はみんなの給料が上がる。高校の教師たちがストライキに突入して給料が上がる。「そうすれば君たちの給料も上がるんだよ」というメッセージをもたらすことによって、全米の注目を集めていきました。市民運動として勝利して、注目を集めるわけです。市民の支持があって勝てたわけです。これが格差社会への異議申し立てです。ここが2009年のUAWの闘いの敗北、リーマンショック後の敗北から総括して、労働組合運動が変わりつつあります。つまりUAWは、ビジネス・ユニオニズムの権化だったわけです。アメリカと言えば自動車、そのビジネス・ユニオニズムでやってきたUAWが敗北して、その敗北をきっかけに変わっていきこうとしているわけです。それはどういう方向に変わっているかということ、格差社会への意義申し立て、労働社会を立て直すことを通して、アメリカの労働者の生活を良くするということです。

なぜUAWはこんなに注目されるのかということ、アメリカ大統領選挙との関係があります。2016年のトランプ勝利と2020年のバイデン勝利、州の勝敗はほとんど変わっていません。変わっているのはどこかということ、ペンシルベニア、ミシガン、ウィスコンシン等、このわずか数州をどっちが取るかでアメリカ大統領は決まるわけです。UAWはここに基盤があったわけです。昔ここは労働組合の組合員がいて、民主党支持だったわけですが、その人たちが引退した時、1990年初頭にクリントンに裏切られたという思いがあるわけです。NAFTAを作って、工場がメキシコに行って、この人たちは失業したわけです。工場がなくなって、民主党に裏切られたという思いがあります。結果としてラストベルトです。その仕返しじゃないけれど、その人たちに対して「民主党はお前らに何してくれた、お前らの

仕事を奪い、お前らの雇用をうまい、お前らの生活を破壊したのはあいつらじゃないか。お前ら工場労働者を潰して、カリフォルニアのスタンフォードを出るようなコンピューターサイエンスに金をばらまいているのは民主党なんだ。お前らの生活を守るのはトランプだ」と言って、トランプが勝利したわけです。これがラストベルトだったわけです。そういった点もありまして、UAW のストライキは非常に注目を集めましたし、UAW のストライキにバイデンも来て激励したということは、そういう側面もあるからです。

3 日本への示唆

最後に日本への示唆ですが、最近、全労連が注目しているのは、コミュニティー・オーガナイズングという手法です。コミュニティー・オーガナイズングというのは、実はアメリカのソーシャルムーブメント・ユニオニズムでも採用されている手法で、オバマ大統領の選挙キャンペーンに応用されて、オバマが勝ったことから、アメリカでも注目されているものです。コミュニティー・オーガナイズングとは何かと言うと、結論から言うと、戦前アメリカの労働組合運動から生まれたのがコミュニティー・オーガナイズングです。1930年、アメリカのシカゴを舞台に CIO（産業別組合会議）という組合ができます。AFL（アメリカ労働総同盟）と CIO は何が違うかと言うと、AFL は熟練の職人の組合、CIO は熟練のない自動車産業労働者たちの産別の運動です。CIO は熟練に依拠できないので、社会の注目を集めるという運動を展開しました。社会の注目を集めるために過激な手法を使った、それがコミュニティー・オーガナイズングの出発点になります。戦後 CIO は AFL-CIO になり保守化します。それでビジネス・ユニオニズムを強めますけれど、この時に UE（電気・ラジオ・機械労働組合）は CIO から追放されます。赤狩りの時に、共産党の組合だということで追放されて、CIO は保守化して AFL-CIO になります。AFL-CIO は革新性を失って保守化します。一番典型的なのが公民権運動とベトナム反戦運動に対して敵対的な態度をとります。黒人の地位向上、そしてベトナム反戦運動に対して、大学生のベトナム反戦運動のデモ隊を労働組合が襲撃したりしています。そういう事件も引き起こします。

唯一の例外が 1950—60 年代のカリフォルニアのメキシコ系農業労働者を組織した UFW（全米農業労働者組合）です。その活動家がセサル・チャベスと言いますが、絵本になっているくらい伝説の活動家です。このセサル・チャベスによって応用されたのがコミュニティー・オーガナイズングです。コミュニティー・オーガナイズングの活動家であったセサル・チャベスが、コミュニティー・オーガナイズングだけでは労働者を救えないということで、UFW という労働組合を作るわけです。虐げられたメキシコ系の農業労働者、最も底辺の労働者たちをコミュニティー・オーガナイズングで組織化するわけですが、この戦いぶりになるほどという感じです。どういうことかと言うと、公民権運動との連携、コアリションと言いますが、抑圧された黒人の地位向上を求める運動が公民権運動ならば、抑圧されたメキシコ系農業労働者の地位向上を求める運動が UFW であるという構造を作り上げることに成功しました。公民権運動というのはセルマのマーチと言って、1 年かけて黒人たちが請願で行進をするわけです。そこに警官隊が警察犬を押しかけたり、消防車の放水をしたりして妨害する所を映像に撮って、世界中が見るわけです。つまり国内で自国民を弾圧している映像がずっと流れている下で、西側諸国のリーダーとしてのメンツが

丸つぶれなわけです。特にベトナム反戦運動もあり、アメリカの威信は低下して、イメージは低下する。その中で公民権運動にケネディを引っ張り出して、公民権法という法律を制定させるというのが、黒人たちの運動だとしたら、それと全く同じ構造を借りたのが、セサル・チャベスだったわけです。カリフォルニア州のデラノからサクラメントまで農業労働者で行進をします。行進をする中で、農園の使用者たちがいかにひどい状況でメキシコ系労働者をこき使っているかということがアピールされて、イメージを落とすのを恐れて、UFWと労働協約を結んでいきます。セサル・チャベスは、そういう形で成功した労働組合の指導者です。つまりどういうことかと言うと、労働運動の中に社会運動を持ち込むわけです。社会の注目を集めて、人々の同情、正義感、社会正義に対する心、それを引き出す、それを労働運動でどう表現するか、これを考え抜いたのがセサル・チャベスです。この人が使ったのがコミュニティ・オーガナイズングという手法で、労働運動の中に運動を取り戻せということで、今はレイバーノーツの中に入っています。ただしセサル・チャベスは、後に変質して、権力をお金にするというか、周りの活動家たちを組合から追放するわけです。追放された人たちがSEIU（サービス従業員国際労働組合）とか、今のソーシャルムーブメント・ユニオニズムの活動家になってノウハウを継いでやっていくわけです。この時に追放された一人が、マーシャル・ガンツで、ハーバード大学でコミュニティ・オーガナイズングを用いた社会運動を大学の教師として教えています。この人が元になって、その教え子たちがオバマの選挙キャンペーンを担っていったという関係です。

そして全労連の布施さんを中心に、シカゴで勉強して、全労連の中にこの潮流を引っ張ろうと努力しているという流れになっています。今日はこれで終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

以上

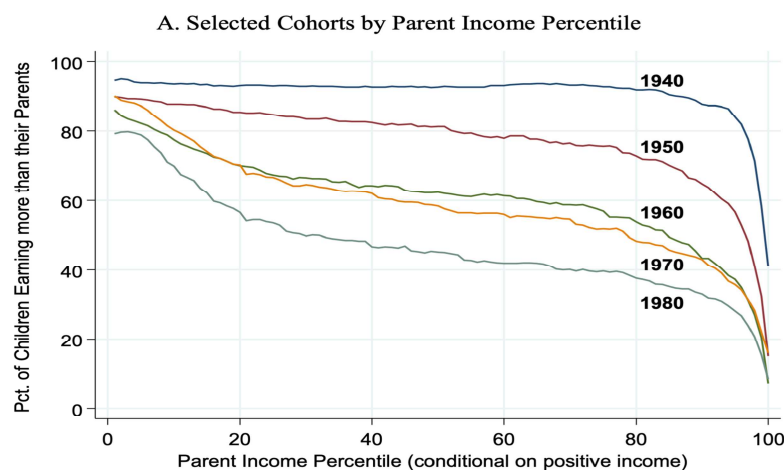
図1 5分位毎の純世帯資産（平均値）の変化 1983-2016年

| 表14-1 5分位毎の純世帯資産（平均額）の変化 1983-2016年 | | | | | | | | 単位 (1000ドル, 2016年ドル平価) |
|-------------------------------------|----------------|---------------|---------------|-------------|------------|-----------|----------|------------------------|
| | | | | 第5分位 | 第4分位 | 第3分位 | 第2・1分位 | 全体 |
| | 上位 0.1% | 上位 0.5% | 上位 1.0% | 上位20% | 上位20-40% | 中位40-60% | 下位40%以下 | |
| 平均純家計資産 | | | | | | | | |
| 1983年 (a) | 43,267.0 | 16,097.0 | 10,565.0 | 1,273.0 | 196.7 | 81.7 | 6.9 | 313.0 |
| 2016年 (b) | 100,811.0 | 40,414.0 | 26,401.0 | 2,999.0 | 273.6 | 81.7 | -8.9 | 667.6 |
| 変化 (b)/(a) | 2.33 | 2.51 | 2.50 | 2.36 | 1.39 | 1.00 | | 2.13 |
| | | | | | | | | 単位 (1000円) |
| | | | | 第5分位 | 第4分位 | 第3分位 | 第2・1分位 | 全体 |
| 円表記 | 上位 0.1% | 上位 0.5% | 上位 1.0% | 上位20% | 上位20-40% | 中位40-60% | 下位40%以下 | |
| 1983年 (a) | 4,759,370,000 | 1,770,670,000 | 1,162,150,000 | 140,030,000 | 21,637,000 | 8,987,000 | 759,000 | 34,430,000 |
| 2016年 (b) | 11,089,210,000 | 4,445,540,000 | 2,904,110,000 | 329,890,000 | 30,096,000 | 8,987,000 | -979,000 | 73,436,000 |
| | | | 約12億円 | 約1.4億円 | 約2.2千万 | 約900万円 | 約76万円 | |
| | | | 約29億円 | 約3.3億円 | 約3千万円 | 約901万円 | 約98万円の負債 | |

Wolff, N. E. (2017a) A Century of Wealth in America, Massachusetts, The Belknap Press of Harvard University Press.

図2 「親よりも豊かになる子どもの割合」出生年コホート

Figure 1. Baseline Estimates of Absolute Mobility by Birth Cohort



Raj Chetty et. al. (2016) “The Fading American Dream” NBER Working Paper, National Bureau of Economic Research.

図3 アマゾン初の労働組合結成に立ち上がったクリスチャン・スモールズ氏

保存

文字 印刷



アマゾン初の労働組合結成に立ち上がったクリスチャン・スモールズ氏。従業員投票で組合結成が承認され、シャンパンで祝った＝米ニューヨークで2022年4月1日、AP

「（米アマゾン創業者の）ジェフ・ベゾスに御礼を言いたい。彼が宇宙に行っている間、我々は（労働組合結成に向けた従業員投票を行うために必要な）署名を集めることができたのだから」。4月1日、アマゾン初の労

出所：毎日新聞 HP より

<https://mainichi.jp/premier/business/articles/20220421/biz/00m/020/024000c>

図4 10月23日 ステランティス スト突入の様子。



<https://x.com/UAW/status/1716459722562228653?s=20>